

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅲ (SimulationⅢ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	野村利明・渥美栄一・菊川忠臣
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	135時間 (3)	開講区分 曜日・時間	前期 月曜日:3~4時限, 金曜日:1~2時限
【授業の学習内容と心構え】							
<p>救急救命士として様々な救急現場で傷病者を対応してきた教員および救急医療機関で多くの患者を対応してきた教員が、シミュレーション実習を通じて、様々な症例に対する適切な「観察」「判断」「処置」「搬送」の流れを習得するための授業を行う。</p> <p>ここでは、改定第10版救急救命士標準テキストを中心とした事前学習と振り返りによって確実な知識を身につけるとともに、「安全」「確実」「迅速に」をモットーに「全ては傷病者のために！」常に何が必要かを考えられる救急救命士になるため、高い意識を持って実習に臨むことが必要不可欠である。</p>							
【到達目標】							
<p>①消防官または救急業務に携わる者として、どのような職場においても即戦力として活躍でき、周囲から必要とされる人材になる。</p> <p>②傷病者の病態を把握するための観察を通して、緊急度・重症度の判断を行い、適切な救急救命処置、病院選定ができる力を身につける。</p> <p>③「全ては傷病者のために！」をスローガンに、傷病者の立場や社会的背景などに配慮した救急活動が実践できる知識、技術を身につける。</p>							
【使用教科書・教材・参考書】				【授業外における学習】			
<ul style="list-style-type: none"> ●改定第10版 救急救命士標準テキスト ●改訂第2版 JPTECガイドブック ●ビジュアルノート第5版 ●その他配布資料 				<ul style="list-style-type: none"> ●改定第10版救急救命士標準テキストを基盤とした確実な読み込みを行うことをはじめ、別に配布する事前学習シートを作成し、実習開始前に提出することが絶対条件である。 			
回	授業概要			回	授業概要		
1,2	<p>【授業単元】状況設定問題から活動を考える</p> <p>【授業形態】演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>①20分耐久胸骨圧迫を通して自らが救急救命士としての自覚と救急救命士としての覚悟を再認識する。</p> <p>②質の高い胸骨圧迫を実施できる。</p>			17~19	<p>【授業単元】外傷:総合訓練</p> <p>【授業形態】実習(ロールプレイ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①JPTECにおける活動の目的、意義を再確認する。</p> <p>②傷病者の「緊急度・重症度」を適切に判断できる。</p> <p>③ロードアンドゴーの概念を理解した活動ができる。</p> <p>④確実な「観察」「処置」「搬送」「車内活動」ができる。</p>		
3,4	<p>【授業単元】状況設定問題から活動を考える</p> <p>【授業形態】演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>①状況評価から救急隊としての活動方針を決める。</p> <p>②活動方針を傷病者の病態に合わせた活動ができる。</p> <p>③「観察」⇒「判断」⇒「処置」⇒「評価」の順で適宜実施でき、適切な医療機関へ遅滞なく搬送に結びつける活動ができる。</p>			20,21	<p>【授業単元】外傷活動振り返り/意識障害想定作成</p> <p>【授業形態】実習</p> <p>【到達目標】</p> <p>①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。</p>		
5,6	<p>【授業単元】頭痛</p> <p>【授業形態】実習(ロールプレイ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①状況評価から救急隊としての活動方針を決める。</p> <p>②活動方針を傷病者の病態に合わせた活動ができる。</p> <p>③「観察」⇒「判断」⇒「処置」⇒「評価」の順で適宜実施でき、適切な医療機関へ遅滞なく搬送に結びつける活動ができる。</p>			22~24	<p>【授業単元】意識障害</p> <p>【授業形態】実習(ロールプレイ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。</p>		
7,8	<p>【授業単元】頭痛</p> <p>【授業形態】実習(ロールプレイ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①状況評価から救急隊としての活動方針を決める。</p> <p>②活動方針を傷病者の病態に合わせた活動ができる。</p> <p>③「観察」⇒「判断」⇒「処置」⇒「評価」の順で適宜実施でき、適切な医療機関へ遅滞なく搬送に結びつける活動ができる。</p>			25,26	<p>【授業単元】症候学</p> <p>【授業形態】C・D問題演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>痙攣、運動障害、感覚障害、めまい、呼吸困難、咯血についての想定問題を理解し解答を導くことができる。</p>		
9,10	<p>【授業単元】頭痛</p> <p>【授業形態】実習(ロールプレイ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①状況評価から救急隊としての活動方針を決める。</p> <p>②活動方針を傷病者の病態に合わせた活動ができる。</p> <p>③「観察」⇒「判断」⇒「処置」⇒「評価」の順で適宜実施でき、適切な医療機関へ遅滞なく搬送に結びつける活動ができる。</p>			27~29	<p>【授業単元】意識障害</p> <p>【授業形態】実習(ロールプレイ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。</p>		
11,12	<p>【授業単元】外傷:総合訓練</p> <p>【授業形態】実習(ロールプレイ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①JPTECにおける活動の目的、意義を再確認する。</p> <p>②傷病者の「緊急度・重症度」を適切に判断できる。</p> <p>③ロードアンドゴーの概念を理解した活動ができる。</p> <p>④確実な「観察」「処置」「搬送」「車内活動」ができる。</p>			30,31	<p>【授業単元】意識障害活動振り返り/痙攣・めまい想定作成</p> <p>【授業形態】演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。</p>		
13,14	<p>【授業単元】外傷:総合訓練</p> <p>【授業形態】実習(ロールプレイ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①JPTECにおける活動の目的、意義を再確認する。</p> <p>②傷病者の「緊急度・重症度」を適切に判断できる。</p> <p>③ロードアンドゴーの概念を理解した活動ができる。</p> <p>④確実な「観察」「処置」「搬送」「車内活動」ができる。</p>			32~34	<p>【授業単元】痙攣・めまい</p> <p>【授業形態】実習(ロールプレイ)</p> <p>【到達目標】</p> <p>①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。</p>		
15,16	<p>【授業単元】症候学</p> <p>【授業形態】C・D問題演習</p> <p>【到達目標】</p> <p>心肺停止、ショック、アナフィラキシー、蕁麻疹、意識障害頭痛についての想定問題を理解し解答を導くことができる。</p>			<p>【評価について】</p> <p>合計100点満点で評価し、内訳は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●60点:実技試験 ●30点:小テスト ●10点:出席(10点×出席率で算出)を期末試験の評価とする。(小数点以下切り捨て) 			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅲ (SimulationⅢ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	野村利明・渥美栄一・菊川忠臣
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	135時間 (3)	開講区分	前期 月曜日:3~4時限, 金曜日:1~2時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として様々な救急現場で傷病者を対応してきた教員および救急医療機関で多くの患者を対応してきた教員が、シミュレーション実習を通じて、様々な症例に対する適切な「観察」「判断」「処置」「搬送」の流れを習得するための授業を行う。 ここでは、改定第10版救急救命士標準テキストを中心とした事前学習と振り返りによって確実な知識を身につけるとともに、「安全」「確実」「迅速に」をモットーに「全ては傷病者のために」常に何が必要かを考えられる救急救命士になるため、高い意識を持って実習に臨むことが必要不可欠である。							
【到達目標】 ①消防官または救急業務に携わる者として、どのような職場においても即戦力として活躍でき、周囲から必要とされる人材になる。 ②傷病者の病態を把握するための観察を通して、緊急度・重症度の判断を行い、適切な救急救命処置、病院選定ができる力を身につける。 ③「全ては傷病者のために」をスローガンに、傷病者の立場や社会的背景などに配慮した救急活動が実践できる知識、技術を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 ●改定第10版 救急救命士標準テキスト ●改訂第2版 JPTECガイドブック ●ビジュアルノート第5版 ●その他配布資料				【授業外における学習】 ●改定第10版救急救命士標準テキストを基盤とした確実な読み込みを行うことはじめ、別に配布する事前学習シートを作成し、実習開始前に提出することが絶対条件である。			
回	授業概要			回	授業概要		
35,36	【授業単元】症候学 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 失神、胸痛、動悸、腹痛、吐血・下血、窯背部痛についての想定問題を理解し解答を導くことができる。			55,56	【授業単元】症候学 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 妊婦(性器出血、産科救急)、小児(アナフィラキシー意識障害、痙攣、呼吸困難、吐血・下血)についての想定問題を理解し解答を導くことができる。		
37~39	【授業単元】痙攣・めまい 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			57~59	【授業単元】喀血・吐血・下血 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
40,41	【授業単元】痙攣・めまい想定振り返り/呼吸困難想定作成 【授業形態】演習 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			60,61	【授業単元】喀血・吐血・下血振り返り/運動麻痺・一過性意識消失と失神想定作成 【授業形態】演習 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
42~44	【授業単元】呼吸困難 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			62~64	【授業単元】運動麻痺・一過性意識消失と失神想定作成 【授業形態】演習 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
45,46	【授業単元】症候学 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 嘔吐・下痢、感染症、精神障害、ストレス障害、排尿障害コミュニケーションについての想定問題を理解し解答を導くことができる。			65,66	【授業単元】運動麻痺・一過性意識消失と失神想定作成 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
47~49	【授業単元】呼吸困難 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			67,68	【授業単元】定期試験、解答解説 【授業形態】 【到達目標】		
50,51	【授業単元】呼吸困難想定振り返り/喀血・吐血・下血想定作成 【授業形態】演習 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。						
52~54	【授業単元】喀血・吐血・下血 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④容態変化を予測した継続観察と救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			【評価について】 合計100点満点で評価し、内訳は以下のとおりとする。 ●60点:実技試験 ●30点:小テスト ●10点:出席(10点×出席率で算出)を期末試験の評価とする。(小数点以下切り捨て)			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅲ (SimulationⅢ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	野村俊明・能登 誠
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	135時間 (3)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日1-4時限、金曜日1、2時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として現場経験のある教員が授業を担当する。最終学年次として、これまで培った技術をもち、プロフェッショナルとしての自覚を持つことが必要不可欠です。そのためには救急救命士国家試験に合格しなければなりません。社会人1年目から救急救命士として個々人が社会に貢献できる人材になるために、医学的根拠のあるしっかりした知識を身につけるため、改訂第10版救急救命士標準テキストを読み込みましょう。							
【到達目標】 ①消防官、救急業務に携わる者として、どのような職場においても対応でき、周囲から必要とされる人材になる。 ②病態生理を理解した症状変化を見逃すことなく、必要な観察及び救急救命処置ができるとともに、緊急度・重症度に基づく病院選定ができる判断力を身につける。 ③「全ては傷病者のために！」をスローガンに、傷病者の立場や社会的背景なども想像できる救急活動が実践できる知識、技術を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 ●改訂第10版 救急救命士標準テキスト ●第2版 JPTECガイドブック ●ビジュアルノート第5版 ●その他配布資料				【授業外における学習】 ●改訂第10版救急救命士標準テキストを基盤とした確実な読み込みを行うことから別に配布する事前学習シートを作成し、実習開始前に提出することが絶対条件です。			
回	授業概要			回	授業概要		
1	【授業単元】前期の振り返り／腰部通・背部痛想定作り 【授業形態】演習 【到達目標】			20,21	【授業単元】胸痛振り返り／動悸想定作成 【授業形態】演習 【到達目標】 ①現場活動から車内活動の「詳細観察」「重点観察」「継続観察」の違いを理解する。 ②車内活動で「詳細観察」「重点観察」「継続観察」の違いに応じた活動ができる。		
2,3	【授業単元】在宅医療 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 意識障害、呼吸困難、感染症、排尿障害についての想定問題を理解し解答を導くことができる。			22,23	【授業単元】外傷 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 歩行者・自転車、墜落、転落・転倒、挟圧、打撲についての想定問題を理解し解答を導くことができる。		
4～6	【授業単元】腰部通・背部痛 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①状況評価から救急隊としての活動方針を決める。 ②活動方針を適宜修正をかけた活動が行う。 ③「観察」⇒「判断」⇒「処置」⇒「評価」の順で適宜実施でき、遅滞なく適切な対応ができる。			24～26	【授業単元】動悸 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
7～9	【授業単元】腰部通・背部痛 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			27,28	【授業単元】動悸 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
10,11	【授業単元】腰部通・背部痛振り返り／胸痛想定作成 【授業形態】演習 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			29,30	【授業単元】外傷 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 穿通創(顔面、頭部、胸部、腹部、下肢)についての想定問題を理解し解答を導くことができる。		
12,13	【授業単元】多数傷病者対応、外傷 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 中毒、交通事故、最先着救急隊、応援救急隊、四輪車、自動二輪車についての想定問題を理解し解答を導くことができる。			31,32	【授業単元】動悸振り返り／腹痛想定作成 【授業形態】演習 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
14～16	【授業単元】胸痛 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			33～35	【授業単元】腹痛 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
17～19	【授業単元】胸痛 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			【評価について】 合計100点満点で評価し、内訳は以下のとおりとする。 ●60点:実技試験 ●30点:小テスト ●10点:出席(10点×出席率で算出)を期末試験の評価とする。(小数点以下切り捨て)			
【特記事項】							

科目名 (英)	シミュレーション実習Ⅲ (SimulationⅢ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	野村俊明・能登 誠
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	実習	総時間 (単位)	135時間 (3)	開講区分 曜日・時間	後期 火曜日1-4時限、金曜日1、2時限
【授業の学習内容と心構え】 救急救命士として現場経験のある教員が授業を担当する。最終学年次として、これまで培った技術を持ち、プロフェッショナルとしての自覚を持つことが必要不可欠です。そのためには救急救命士国家試験に合格しなければなりません。社会人1年目から救急救命士として個々人が社会に貢献できる人財になるために、医学的根拠のあるしっかりした知識を身につけるため、改訂第10版救急救命士標準テキストを読み込みましょう。							
【到達目標】 ①消防官、救急業務に携わる者として、どのような職場においても対応でき、周囲から必要とされる人財になる。 ②病態生理を理解した症状変化を見逃すことなく、必要な観察及び救急救命処置ができるとともに、緊急度・重症度に基づく病院選定ができる判断力を身につける。 ③「全ては傷病者のために！」をスローガンに、傷病者の立場や社会的背景なども想像できる救急活動が実践できる知識、技術を身につける。							
【使用教科書・教材・参考書】 ●改定第10版 救急救命士標準テキスト ●第2版 JPTECガイドブック ●ビジュアルノート第5版 ●その他配布資料				【授業外における学習】 ●改定第10版救急救命士標準テキストを基盤とした確実な読み込みを行うことから別に配布する事前学習シートを作成し、実習開始前に提出することが絶対条件です。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
36,37	【授業単元】腹痛 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			54,55	【授業単元】応用総合訓練 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
38,39	【授業単元】外傷 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 巻き込まれ、スポーツ、熱傷、電撃症、刺咬症、小児(挟圧)についての想定問題を理解し解答を導くことができる。			56,57	【授業単元】環境障害 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 窒息、熱中症、低体温症、放射線事故についての想定問題を理解し解答を導くことができる。		
40,41	【授業単元】腹痛振り返り/体温上昇想定作成 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			58,59	【授業単元】応用総合訓練 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
42~44	【授業単元】体温上昇 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			60~62	【授業単元】応用総合訓練 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
45,46	【授業単元】体温上昇 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			63,64	【授業単元】応用総合訓練 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。		
47,48	【授業単元】中毒 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 医薬品中毒、有機リン、ガス中毒についての想定問題を理解し解答を導くことができる。			65,66	【授業単元】環境障害 【授業形態】C・D問題演習 【到達目標】 減圧障害、酸素欠乏、妊婦(窒息)小児(窒息、溺水)についての想定問題を理解し解答を導くことができる。		
49,50	【授業単元】体温上昇振り返り/応用総合訓練想定作成 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			67,68	【授業単元】定期試験/振り返り 【授業形態】 【到達目標】		
51~53	【授業単元】応用総合訓練 【授業形態】実習(ロールプレイ) 【到達目標】 ①情報から現場活動の優先順位を判断できる。②観察結果から病態を判断しロード&ゴーを判断できる。③病院選定ができる。④継続観察と容態変化を予測した救急処置ができる。⑤チーム活動を組み立て、指揮できる。			【評価について】 合計100点満点で評価し、内訳は以下のとおりとする。 ●60点:実技試験 ●30点:小テスト ●10点:出席(10点×出席率で算出)を期末試験の評価とする。(小数点以下切り捨て)			
【特記事項】							

科目名 (英)	総合基礎Ⅱ (Preparation for the civil service examⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	藤 雅茂
学科・専攻	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	360時間 (24)	開講区分 曜日・時間	前期/後期
【担当教員紹介と授業の学習内容・心構え】 長年に渡って消防を中心とした公安職の公務員対策に携わってきた教員が、公務員試験の重要度の高い問題を解説することで、1次試験の合格に必要な知識を学ぶ。							
【到達目標】 東京消防庁Ⅰ類、Ⅱ、Ⅲ類及び政令指定都市消防の教養試験の合格のための基礎力をつける。東京消防庁Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ類、警視庁、東京都1類B、特別区1類の過去問を中心に、教養科目の模擬試験を中心とした授業を行い、誤答の多い問題の解答解説を行う。また、論文試験に必要なスキルを学ぶ。							
【使用教科書・教材・参考書】 オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 一般知能 2020 オープンセサミシリーズ 公務員 国家公務員地方初級 数学理科 2020				【授業外における学習】 公務員試験において計算能力と漢字の読み書き、英語の読解力が重要になるので、毎日、Teams上にアップロードした基礎問題への取り組みが求められる。			
回	授 業 概 要			回	授 業 概 要		
	【授業単元】 総合模試・数学 第1章 数と式 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 因数分解ができる。指数対数の計算ができる。				【授業単元】 総合模試・物理 第3章 力のつりあい 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 力とはなにかを理解し、力のつりあい、力のモーメントの問題を解答できる。		
	【授業単元】 総合模試・数学 第2章 2次関数 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 解の公式や平方完成を用いて、2次関数、2次方程式の問題を解答できる。				【授業単元】 総合模試・物理 第4章 運動の法則 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 運動の法則とは何かを理解し、摩擦と物体の運動の問題を解答できる。		
	【授業単元】 総合模試・数学 第3章 絶対値と不等式 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 絶対値を含む方程式と不等式の計算ができる。				【授業単元】 総合模試・物理 第7章 エネルギー 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 運動量、仕事、力学的エネルギー、熱に関する定義を理解し、同分野の問題を解答できる。		
	【授業単元】 総合模試・数学 第5章 三角比と三角関数 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 三角関数とは何かを理解し、正弦定理や余弦定理を用いて三角方程式の問題を解答できる。				【授業単元】 総合模試・物理 第8章 波動 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 波の性質を理解し、光、レンズ、音波に関する問題について解答できる。		
	【授業単元】 総合模試・数学 第6章 数列 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 等差数列、等比数列の公式を用いて、数列の問題を解答できる。				【授業単元】 総合模試・化学 物質の構成と化学の基礎 【授業形態】 講義 【到達目標】 周期表の見方を理解し、化学の基礎法則、主要な元素の特徴について理解する。		
	【授業単元】 総合模試・物理 第1章 速度・加速度 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 vtグラフを用いて速度・加速度の問題を解答できる。				【授業単元】 総合模試・化学 化学結合 【授業形態】 講義 【到達目標】 原子の電子配置を理解し、分子構造やイオン、化学結合の仕組みを理解する。		
	【授業単元】 総合模試・物理 第2章 落体の運動 【授業形態】 講義・演習 【到達目標】 平方完成を用いて、自由落下、鉛直投げ上げ投げ下ろしの問題を解答できる。				【授業単元】 定期試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 東京消防庁Ⅰ類出題レベル問題を解答することができる。		
	【授業単元】 中間試験、解答解説 【授業形態】 講義 【到達目標】 東京消防庁Ⅰ類レベル問題を解答できる。				【評価方法について】 中間試験40点と定期試験60点で総合し、A～Fの6段階で評価を行う。中間試験、定期試験ともに記述問題で構成される。式と答の両方を正解しないと得点にならない。		
【特記事項】							

科目名 (英)	総合基礎Ⅱ (Preparation for the civil service examⅡ)	必修 選択	必修	年次	3年	徳岡 健男
学科・専攻:	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	360時間 (24)	前期/後期
【授業の学習内容と心構え】 専門学校の教員として、公務員試験科目(人文・社会)を担当してきた教員が、公務員試験合格のための授業を実施する。具体的には首都圏の消防官試験の合格を目指すための「過去問題演習(人文・社会分野)と解説」を中心としたものである。また、「小論文」の比重が高まっていることから、過去出題されている課題を例にとり、小論文作成のポイントを整理して理解することができる授業である。授業実施後には、自信をもって消防官試験を受験するレベルに到達することができる。						
【到達目標】 消防官試験で出題された人文・社会の問題について、各選択肢の論点が正確に理解できる程度までに到達させる。 消防官試験で出題される見込みのある時事問題について、テーマと内容を理解し知識を定着させるレベルに到達させる。 消防官試験の小論文問題について、題意の意図を把握し、適切な小論文記述することができるレベルに到達させる。						
【使用教科書・教材・参考書】 書名:公務員(東京アカデミー編) 人文・社会 消防官試験・過去問題			【授業外における学習】 自主的に学習計画を立て、着実に計画を実行することを期待します。特に小論文については近年の災害などからの出題が予想されます。災害のあった自治体からの情報を自身でチェックして、授業に出席してください。			
回	授業概要		回	授業概要		
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。			【授業単元】 小論文演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 東京・埼玉・横浜・千葉の自治体の過去小論文問題をテーマを押さえる。またテーマごとに注意点を踏まえ、800字以上書く。		
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。			【授業単元】 小論文演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 東京・埼玉・横浜・千葉の自治体の過去小論文問題をテーマを押さえる。またテーマごとに注意点を踏まえ、800字以上書く。		
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。			【授業単元】 小論文演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 東京・埼玉・横浜・千葉の自治体の過去小論文問題をテーマを押さえる。またテーマごとに注意点を踏まえ、800字以上書く。		
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。			【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 日本史、世界史、地理について、東京消防庁の過去問題を演習し、重要な論点を整理し理解する。		
	【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 政治・経済・国語について、重要な論点を整理し把握する。			【授業単元】 過去問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 日本史、世界史、地理について、東京消防庁の過去問題を演習し、重要な論点を整理し理解する。		
	【授業単元】 時事問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 テーマ別時事問題 厚生・労働・文部科学・社会問題			【授業単元】 公務員試験 模擬試験 【授業形態】 問題演習 解説講義 【到達目標】 小論文を除く、模擬問題演習を実施する。		
	【授業単元】 時事問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 テーマ別時事問題 厚生・労働・文部科学・社会問題			【授業単元】 公務員試験 模擬試験 【授業形態】 問題演習 解説講義 【到達目標】 小論文を除く、模擬問題演習を実施する。		
	【授業単元】 時事問題演習 【授業形態】 演習・講義 【到達目標】 テーマ別時事問題 厚生・労働・文部科学・社会問題			【評価について】 授業ごとに小テストか課題を与え、内容理解の確認をする。また定期試験として筆記試験を行なう。小テスト・課題40点・筆記試験60点、合計100点満点で評価する。詳細は、学則規定に準ずる。		
【特記事項】 本番試験において実力を出すためには日常の生活態度が重要です。日々の学習計画を立て、規律正しい生活を意識してください。						

科目名 (英)	総合救急医療Ⅱ (Preparation for The National Examination II)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	菊川 忠臣
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60時間 (4)	開講区分 曜日・時間	前期 金曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 長年に渡り、救急救命士として消防機関において救急医療の現場に携わり、教育機関においても広く研究や教育活動に携わってきた教員と、臨地実習における救急医療指導を行ってきた教員が、緊急度・重症度判定し、適切な救急救命処置を実施するための考え方を具体的かつ総合的に育んでいく。学生自身が救急救命士の社会的な役割を実感できるように授業を共に構築していく。							
【到達目標】 ①合格ラインに到達することができる。 ②正解・不正解の根拠ともに理解し、説明することができる。 ③テキストや参考書の使い方及び反復学習の仕方を習得し、自己学習を習慣化できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士国家試験対策 出題分野別国試問題・解説集 A・B問題編 救急救命士国家試験対策 出題分野別国試問題・解説集 C・D問題編				【授業外における学習】 授業以外の内容も交えながら、授業内で取り扱った国家試験の問題や実施済み各種模擬試験の見直しに取り組むこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1・2	【授業単元】人体の構造と機能 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①体液の組成を説明できる。 ②末梢神経の種類と神経伝達物質、中枢、効果器の関係を説明できる。 ③中枢神経(大脳・間脳・脳幹・小脳・脊髄)の役割を説明できる。			17・18	【授業単元】救急症候学 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①髄体路と麻痺との関係を説明できる。 ②めまいの性質から中枢性か末梢性かを分けることができる。 ③呼吸困難の特徴と病変部位(上気道・下気道)を結び付けることができる		
3・4	【授業単元】人体の構造と機能 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①視覚器・聴覚器を絵に描き、構造を説明できる。 ②気管挿管・気管切開に必要な呼吸器の構造を説明できる。 ③酸素解離曲線について説明できる。			19・20	【授業単元】救急症候学 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①血圧調節のメカニズムと失神との関係を説明できる。 ②動悸と不整脈との関係を説明できる。 ③腹痛(体性痛・内臓痛)の性質と代表疾患を説明できる。		
5・6	【授業単元】人体の構造と機能 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①心音と首の成分について説明できる。 ②肝臓と膵臓の機能について説明できる。 ③糖質代謝と脂質代謝について、ホルモンの働きを含め説明できる。			21・22	【授業単元】疾病救急医学 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①頭蓋内出血の部位と症状との対応関係を説明できる。 ②髄膜炎の症状を説明できる。 ③代表的な上気道疾患と下気道疾患を挙げ、症状との関係を説明できる		
7・8	【授業単元】疾病の成り立ちと回復の促進 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①感染経路別に代表的な感染源を挙げることができる。 ②感染経路別の対策について説明できる。 ③代表的な感染症の感染症類型を示すことができる。			23・24	【授業単元】疾病救急医学 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①虚血性疾患でみられる不整脈の特徴を説明できる。 ②致死性不整脈の種類と波形を図示して説明できる。 ③動脈血栓症と静脈血栓症の発症要因と症状の違いを説明できる。		
9・10	【授業単元】疾病の成り立ちと回復の促進 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①高張性・低張性脱水の特徴と、分泌されるホルモンの関係を説明できる ②創傷治癒過程について説明できる。 ③染色体異常について説明できる。			25・26	【授業単元】疾病救急医学 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①緊急度の高い消化器疾患を挙げることができる。 ②消化性潰瘍・肺炎を消化酵素との関係から説明できる。 ③尿管結石の発生部位と症状との関係を説明できる。		
11・12	【授業単元】救急病態生理学 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①呼吸不全の種類を3つ挙げ、代表的な原因を対応させることができる。 ②心不全の症状と緊急度の判断について説明できる。 ③ショックを4つに分類し、病態と症状、対応について説明できる。			27・28	【授業単元】疾病救急医学 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①I型アレルギーのメカニズムを踏まえ、アナフィラキシーショックを説明できる。 ②食中毒の原因菌の生息域・潜伏期について説明できる。 ③高齢者の身体的な特徴と疾病との関係を説明できる。		
13・14	【授業単元】救急病態生理学 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 ①頭蓋内圧亢進の徴候および悪化させる要因について説明できる。 ②心肺停止による臓器障害について説明できる。 ③心肺蘇生による臓器血流とその効果について説明できる。			29・30	【授業単元】試験演習 【授業形態】試験 【到達目標】 合格ラインに到達することができる。		
15・16	【授業単元】試験演習 【授業形態】試験 【到達目標】 合格ラインに到達することができる。			【評価について】 下記の条件を全て満たすことで、評価する。 ・第1回JESCO模擬試験から第6回JESCO模擬試験及びJESA模擬試験は、欠欠等の特別な事由を除き、必ず当日に受験することで、単位取得を認める。 ・各種模擬試験で合格ライン未達の場合は、通常授業がある場合を除き、月曜日から金曜日まで補習を実施するが、欠欠等の特別な事由を除き、全て出席することで単位取得を認める。 ・第3回JESCO模擬試験(12月)または、第4回JESCO模擬試験(1月)のいずれかで合格ラインに達することで単位取得を認める。 なお、第3回JESCO(12月)で合格ライン未達の場合は、年内に三者面談を実施し、以後の対応を協議する。			
【特記事項】 ・遅刻や無断欠席は厳に慎むこと。 ・不明な内容は都度確認すること。							

科目名 (英)	総合救急医療Ⅱ (Preparation for The National Examination II)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	菊川 志臣
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120時間 (8)	開講区分 曜日・時間	後期 月曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 長年に渡り、救急救命士として消防機関において救急医療の現場に携わり、教育機関においても広く研究や教育活動に携わってきた教員と、臨地実習における救急医療指導を行ってきた教員が、緊急度・重症度判定し、適切な救急救命処置を実施するための考え方を具体的かつ総合的に育んでいく。学生自身が救急救命士の社会的な役割を実感できるような授業を共に構築していく。							
【到達目標】 ①合格ラインに到達することができる。 ②正解・不正解の根拠ともに理解し、説明することができる。 ③テキストや参考書の使い方及び反復学習の仕方を習得し、自己学習を習慣化できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士国家試験対策 出題分野別国試問題・解説集 A・B問題編 救急救命士国家試験対策 出題分野別国試問題・解説集 C・D問題編				【授業外における学習】 授業以外の内容も交えながら、授業内で取り扱った国家試験の問題や実施済み各種模擬試験の見直しに取り組むこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
1・2	【授業単元】外傷総論・外傷疫学・ショック・外傷救護 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 「救急救命士を目指す者が、なぜ外傷を学ばなければならないか？」という命題に対する答えを説明できる。			17・18	【授業単元】脊椎・脊髄外傷 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 脊椎・脊髄について解剖学や生理学を踏まえたうえで、それらの外傷を理解し、問題を解くことができる。		
3・4	【授業単元】外傷の現場活動・JPTEC 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 外傷の現場活動とJPTECの活動を理解し、問題を解くことができる。			19・20	【授業単元】胸部外傷 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 胸部について解剖学や生理学を踏まえたうえで、それらの外傷を理解し、問題を解くことができる。		
5・6	【授業単元】損傷の疫学、受傷機転とエネルギー、受傷機転による違い 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 損傷の疫学、受傷機転とエネルギー、外傷の分類、受傷機転による違いを理解し、外傷病態生理を踏まえたうえで、問題を解くことができる。			21・22	【授業単元】腹部・骨盤外傷、多発外傷 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 腹部・骨盤について解剖学や生理学を踏まえたうえで、それらの外傷を理解し、問題を解くことができる。		
7・8	【授業単元】異物・窒息、絞頸・絞頸 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 各種の異物や窒息に対する救護を理解するとともに、絞頸・絞頸の違いを理解し、問題を解くことができる。			23・24	【授業単元】異物・窒息、絞頸・絞頸 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 窒息に対する救護や絞頸・絞頸の違いを理解し、問題を解くことができる。		
9・10	【授業単元】刺咬症(創)・外傷に関する特殊感染症 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 刺咬症(創)・外傷に関する特殊感染症を理解し、問題を解くことができる。			25・26	【授業単元】刺咬症(創)・外傷に関する特殊感染症 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 刺咬症(創)・外傷に関する特殊感染症を理解し、問題を解くことができる。		
11・12	【授業単元】四肢外傷、皮膚・軟部組織外傷 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 四肢および皮膚・軟部組織について解剖学や生理学を踏まえたうえで、それらの外傷を理解し、問題を解くことができる。			27・28	【授業単元】四肢外傷、皮膚・軟部組織外傷 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 四肢および皮膚・軟部組織について解剖学や生理学を踏まえたうえで、それらの外傷を理解し、問題を解くことができる。		
13・14	【授業単元】頭部外傷、顔面・頸部外傷 【授業形態】講義、演習 【到達目標】 頭部・顔面・頸部について解剖学や生理学を踏まえたうえで、それらの外傷を理解し、問題を解くことができる。			29・30	【授業単元】試験演習 【授業形態】試験 【到達目標】 合格ラインに到達することができる。		
15・16	【授業単元】試験演習 【授業形態】試験 【到達目標】 合格ラインに到達することができる。			【評価について】 下記の条件を全て満たすことで、評価する。 ・第1回JESC模擬試験から第6回JESC模擬試験及びJESA模擬試験は、公欠等の特別な事由を除き、必ず当日に受験することで、単位取得を認める。 ・各種模擬試験で合格ライン未達の場合は、通常授業がある場合を除き、月曜日から金曜日まで補習を実施するが、公欠等の特別な事由を除き、全て出席することで単位取得を認める。 ・第3回JESC模擬試験(12月)または、第4回JESC模擬試験(1月)のいずれかで合格ラインに達することで単位取得を認める。 なお、第3回JESC(12月)で合格ライン未達の場合は、年内に三者面談を実施し、以後の対応を協議する。			
【特記事項】 ・遅刻や無断欠席は厳に慎むこと。 ・不明な内容は都度確認すること。							

科目名 (英)	総合救急医療Ⅱ (Preparation for The National Examination II)	必修 選択	必修	年次	3年	担当教員	菊川 忠臣
学科・コース	救急救命士科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	120時間 (8)	開講区分	後期 曜日・時間 月曜日 3・4時限
【授業の学習内容と心構え】 長年に渡り、救急救命士として消防機関において救急医療の現場に携わり、教育機関においても広く研究や教育活動に携わってきた教員と、臨地実習における救急医療指導を行ってきた教員が、緊急度・重症度判定し、適切な救急救命処置を実施するための考え方を具体的にかつ総合的に育んでいく。学生自身が救急救命士の社会的な役割を実感できるような授業を共に構築していく。							
【到達目標】 ①合格ラインに到達することができる。 ②正解・不正解の根拠ともに理解し、説明することができる。 ③テキストや参考書の使い方が及び反復学習の仕方を習得し、自己学習を習慣化できる。							
【使用教科書・教材・参考書】 救急救命士国家試験対策 出題分野別国試問題・解説集 A・B問題編 救急救命士国家試験対策 出題分野別国試問題・解説集 C・D問題編				【授業外における学習】 授業以外の内容も交えながら、授業内で取り扱った国家試験の問題や実施済み各種模擬試験の見直しに取り組むこと。			
回	授業概要			回	授業概要		
31・32	【授業単元】 熱傷、化学損傷 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 熱傷・化学損傷の病態を理解し、問題を解くことができる。			47・48	【授業単元】 中毒各論 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 救急現場で遭遇し易い中毒物質を理解し、問題を解くことができる。		
33・34	【授業単元】 化学損傷、電撃症・雷撃症 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 化学損傷と電撃症・雷撃症の病態を理解し、問題を解くことができる。			49・50	【授業単元】 異物 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 各種異物の特徴、判断及び処置を理解し、問題を解くことができる。		
35・36	【授業単元】 高齢者外傷、妊婦外傷、妊婦の心肺蘇生 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 高齢者と妊婦の解剖・生理学的な特性を理解し、問題を解くことができる。			51・52	【授業単元】 溺水 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 溺水の分類、機序、判断及び処置を理解し、問題を解くことができる。		
37・38	【授業単元】 小児外傷1 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 小児傷病者によくみられる代表的な損傷の病態生理と初期対応を理解し、問題を解くことができる。			53・54	【授業単元】 熱中症 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 熱中症の分類、機序、判断及び処置を理解し問題を解くことができる。		
39・40	【授業単元】 小児外傷2、スポーツ外傷 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 小児傷病者によくみられる代表的な損傷の病態生理と初期対応を理解するとともに、スポーツ外傷の発生機序と病態を理解し、問題を解くことができる。			55・56	【授業単元】 偶発性低体温症 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 偶発性低体温症の分類、機序、判断及び処置を理解し、問題を解くことができる。		
41・42	【授業単元】 小児外傷1 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 小児傷病者によくみられる代表的な損傷の病態生理と初期対応を理解し、問題を解くことができる。			57・58	【授業単元】 放射線障害、その他環境障害 【授業形態】 講義、演習 【到達目標】 放射線障害、高山病、減圧障害、酸素欠乏症、凍傷、紫外線障害それぞれの分類、機序、判断及び処置を理解し、問題を解くことができる。		
43・44	【授業単元】 小児外傷2、スポーツ外傷 【授業形態】 講義、演習・小テスト 【到達目標】 小児傷病者によくみられる代表的な損傷の病態生理と初期対応を理解し、実践できるようになるとともに、スポーツ外傷の発生機序と病態を理解し、問題を解くことができる。			59・60	【授業単元】 試験演習 【授業形態】 試験 【到達目標】 合格ラインに到達することができる。		
45・46	【授業単元】 試験演習 【授業形態】 試験 【到達目標】 合格ラインに到達することができる。			【評価について】 下記の条件を全て満たすことで、評価する。 ・第1回JESO模擬試験から第6回JESO模擬試験及びJESA模擬試験は、公欠等の特別な事由を除き、必ず当日に受験することで、単位取得を認める。 ・各種模擬試験で合格ライン未達の場合は、通常授業がある場合を除き、月曜日から金曜日まで補習を実施するが、公欠等の特別な事由を除き、全て出席することで単位取得を認める。 ・第3回JESO模擬試験(12月)または、第4回JESC模擬試験(1月)のいずれかで合格ラインに達することで単位取得を認める。 なお、第3回JESC(12月)で合格ライン未達の場合は、年内に三者面談を実施し、今後の対応を協議する。			
【特記事項】 ・遅刻や無断欠席は厳に慎むこと。 ・不明な内容は都度確認すること。							